

4 / 2 1 校長講話 はきものをそろえる

先週の木曜日から2泊3日で5年生が移動教室に行く岩井へいきました。

5日ぶりに皆さんに会えてとても嬉しいです。

今日は皆さんに詩を紹介します。

題 「はきものをそろえる」

はきものをそろえると 心もそろう

心がそろうと はきものもそろう

ぬぐときに そろえておくと はくときに心がみだれない

だれかが みだしておいたら だまってそろえて おいてあげよう

そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう

この詩は、長野県にある円福寺というお寺のご住職を務められた藤本幸邦(こうほう)さんという方の詩です。この詩は、東京がたくさんの爆弾によって、焼け野原のようになっていた終戦の時に作られました。戦争が終わった直後のこと、戦争で親を失った子供たちがたくさんいました。子供のたちは清潔な着物がなく、その多くは裸足でした。それを見た藤本さんはとても心が痛みました。そこで、子供たちを自分のお寺で育てようと思いつき多くの子を自分が住職を務める長野県のお寺に住ませました。親を失い食事もうるくにできない子供たちはさぞかし嬉しかったことでしょう。

ある日、玄関に脱ぎ捨てられた靴がバラバラに脱ぎ散らかっているのに目が止まりました。これはいけないと思った藤本さんは子供たちに「はきものをそろえる」という詩を作られたのだそうです。

さて、皆さんの自宅の玄関や昇降口のくつ箱の中はどうでしょうか。靴はそろっていますか。まさか左右逆になっていたり、くつ箱から落ちていたりしませんね。

靴をそろえず、脱ぎっぱなしにするという行為は自分のこと、その場のことしか考えていないことの現れです。人を思いやる心が抜け落ちています。自分さえよければいいという自分勝手な考え方しかできていないので、どんなときでもやることが雑になります。

靴をそろえることは、「自分自身を見つめる」「自分の行いを振り返る」ことにつながります。また、このような人は、自分の行動を冷静に見つめ、他の人の気持ちを考えて、丁寧に行動することができます。

光が丘夏の雲小の皆さんは、まずは、自分の靴をしっかりとそろえることから始めてください。それができたら、自分の物だけでなく、他の人が乱した靴を黙ってそろえることができる、思いやりの心をもつ人になってほしいのです。